

主な意見の整理

【補助金等の不正行為が起こる背景】

- ・ 不正リスク要因は、「不正を起こす動機が存在」「不正を犯す機会の存在」「不正を正当化する理由」の3つが挙げられるが、今回は「資金確保のためのプレッシャー」「簡単に経理操作できる体制」「倫理観の欠如」が要因として考えられるのではないか。

【補助金等の不正防止のための方策】**○管理運営の適正化**

- ・ 補助等対象となる団体について、一定の猶予期間を設け、任意団体は民間非営利団体や公益法人などへ移行していくことが考えられるのではないか。
- ・ 大型の補助等については、情報開示義務のある公益性を有する団体を対象とすることが考えられるのではないか。

○事務処理体制の整備

- ・ 団体の監査体制を整備するため、コストも考慮しながら、内部監査に併せて外部監査を実施することが考えられるのではないか。
- ・ 団体において事業を実施するにあたり、支払い予定額を示すなどの透明化を図ることが考えられるのではないか。
- ・ 研修により実務担当者の経理処理能力の向上を図ることが考えられるのではないか。

○補助事業等の制度の改善

- ・ 赤字の一部補填から、公演実施前の芸術創造部分に対する補助とするなど、公演収支が補助額に影響しない仕組みへ変更するとともに、団体の資金繰りを容易にするために概算払を導入することが考えられるのではないか。
- ・ 補助事業等が団体の全体の経営規模に対して、適正な規模（割合）であることを把握した上で、補助等を決定することが考えられるのではないか。

○補助事業等の資金管理方法の見直し

- ・ 事業実施に伴い発生する団体からの経費の支払いについては、現金でのやり取りを止め、原則として銀行振り込みとすることが考えられるのではないか。
- ・ 団体において事業毎の専用口座を設けるなど、他の資金と区分して管理することが考えられるのではないか。

○関係者の意識向上

- ・ 研修により関係者のコンプライアンス意識の向上を図ることが考えられるのではないか。
- ・ 不正を許容しないよう、各団体において倫理規定を整備することなどにより、団体の長の姿勢を明確にするとともに、それぞれの構成員に自覚を促すことが考えられるのではないか。
- ・ 研修の実施により団体の役員などのマネジメント能力の向上を図ることが考えられるのではないか。

○コミュニケーションの向上等

- ・ 団体内を風通しの良い環境に改善するとともに、例えば構成員からの相談や意見などを受け付ける窓口を設けることなどが考えられるのではないか。

【その他の課題など】

- ・ 組織の小さな団体に対するコンサルティングや、アドバイザーの派遣といった支援の在り方についても考える必要があるのではないか。